

海外での研究活動

～元中都、元上都遺址と北京内城・新太倉歴史文化保護区～

川井 操

環境建築デザイン学科

昨年度は、本学着任直前の2014年8月20日－29日の10日間、本学副学長・理事の布野修司先生(当時)と環境科学研究科博士前期課程2回生の呉宝音の3人で、内モンゴル・元中都遺址－上都遺址－シリントンの視察、そして北京新太倉歴史文化保護区の都市悉皆調査をおこなった。

今回の調査日程は、北京外城一帯(8月21日)－河北省張北県・元中都遺址(8月22日)－内モンゴルシリント盟正藍旗・元上都遺址－シリント市内(8月23日)－移動日(8月24日)－北京内城・新太倉文化保護区(8月25日－29日)であった。

そして、本調査には、主に2つの目的があった。一つ目は、布野先生の完成間近であった『大元都市』ⁱの総仕上げとして、内モンゴルにある元代都城遺址の視察(上都遺址、中都遺址)である。二つ目は、『大元都市』のQRコードに載せるための写真撮影、そして北京内城・新太倉歴史文化保護区の悉皆調査であった。それに関連して、同地区における都市農村的コミュニティ「城中村」としての現況を把握することであった。

1. 河北省張北県(元中都遺址)－内モンゴル・正藍旗(上都遺址)

元王朝(1271～1368年)では、モンゴル系遊牧民による北京・元大都(1267年)、元上都(1256年)、

元中都(1307年)の大規模な都市造営がおこなわれた。

最初に訪れた元中都遺址は、2001年には国家重点文物保護單位に指定されたものである。元中都は、現在、元中都遺跡博物館(2010年)が建設されるとともに、元中都国家遺跡公園が整備中である。第7代武宗海山(在位1307～1311年)によって、建造されることになるが、海山はわずか30歳で急死する。そして、中都のさらなる建設、使用は停止される。博物館内にある復元図によると、宮城の規模は、東西南北の城壁は各々、606.5m、543.5m、607m、548m、皇城は周長約3400m、外城周長推定1万1800mである。宮城は、後述する上都宮城の方一里ⁱⁱとほぼ一致する。

翌日、内モンゴルシリント盟正藍旗・元上都遺址を訪問した。2012年に世界文化遺産に登録され、その遺址は一般に公開されている。元初代皇帝クビライ・カーン(在位：1260～1294年)によって、夏の都として金中都を冬の都とする両都として建造された。空間構成に着目すると、外城と内城によって構成される。内城すなわち宮城規模は、東辺606.9m、西辺609.7m、北辺560.5m、南辺551.8mである。

三都の宮城の配置構成に着目すると、元上都(1256年)→元大都(1267年)→元中都(1307年)の順序で、宮城の位置が異なる。上都宮城は東南、大都宮城は南、中都宮城は中心へと変化した。つまり、遊牧系の都城に共通して見られる宮城が北部に位置する「北闕型」から中国都城理念の一つである「中央宮闕」化へと向かっていったのがわかる。そして、その空間構造は、明代北京城へと受け継がれる。

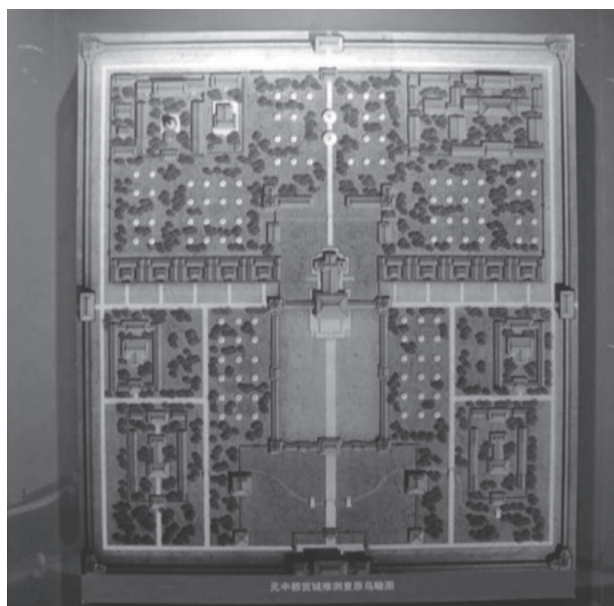


図1：元中都の宮城復元図



図2：元中都遺址

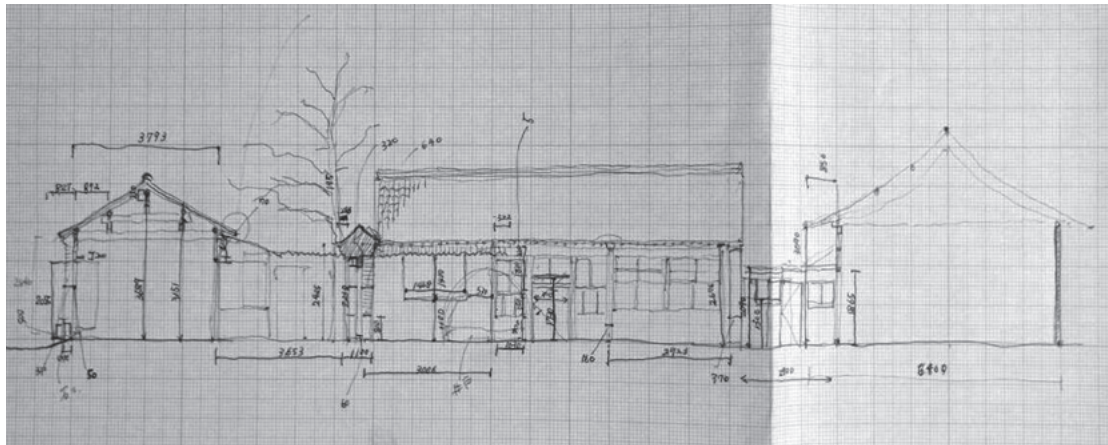


図3：四合院実測調査野帳（作成：川井操）

北京内城・新太倉歴史文化保護区

北京に戻ると、大草原とは打って変わって、都市
悉皆調査をおこなった。

今回の調査対象地区は、いくつかの候補地から、
北京内城の東北部に位置する新太倉歴史文化保護区
を選定した。

同地区を選定した理由として、第一に、布野先
生による北京内城の基本街区モデルⁱⁱⁱの規模（東西
440 歩≒ 677 m）におおよそ合致する点である。第
二に、同地区の中心に蝸局上に歪んだ街路がある点
である。第三に、同地区に数多くの中庭式伝統民居・
四合院が残り、その保存状態も比較的良好な点である。
そして、何よりも面白いのが、リキシャが行き交い、
市場、床屋、大工、修理工といった働く人々の生活
が活き活きとしている点だ。

調査項目は、施設分布（商店の種類、政府機関、
学校、その他）、門、公共トイレ、ゴミ箱、廃品回収所、
電気メーター数、侵街（道路に拡張された物置）、パー
キングであった。さらに、4 件の雑院化した四合院
住宅の実測をおこなった。また、四合院に住む居住
者へのヒアリング（家族構成、職業、収入、出身）
をおこなった。

実測調査を進めていく中で、この地区は、何世代
にもわたって住み続ける北京人と、地方からの出稼
ぎでやってくる人々で構成された多様性に満ちた空
間であることがわかってきた。土地の所有者が、中
国近代史の政治転換と同時に、何度も変わり、複雑
な居住者と雑院化した空間構造が生み出された。四
合院の実測調査は、まるで人間の体内を顕微鏡で丹
念に描くような、知的好奇心を掻き立てられた。

2015 年度以降の研究計画

本研究、特に北京「城中村」に関する研究は、『中国・
北京市「城中村」の居住環境の形成・変容とその持
続的整備手法』と題して、2015 年度から 2017 年度



図4：雑院化した四合院の中庭空間

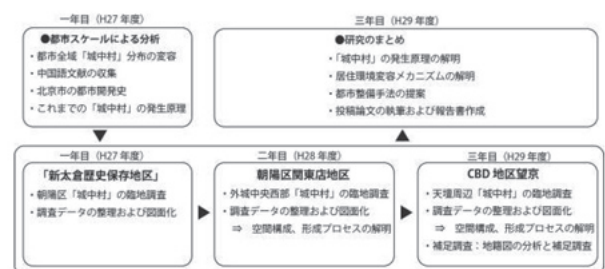


図5：研究計画フローチャート

までの3年間、科学研究費助成事業・若手基盤（B）
として採択された。

2015 年度は、新太倉歴史文化保護区の悉皆調査
を引き続きおこなう予定である。2016 年度は、北
京市東 3 環状線にある「城中村」、2017 年度は、北
京市街地と郊外地の境界にある CBD 地区望京「城
中村」を調査予定である。

i 布野修司著『大元都市～中国都城の理念と空間構造～』京都大学学術出版会、2015.2

ii 一里＝1800 尺で換算（1 尺＝316mm（宋尺））。

iii 街区の東西幅を 440 歩、南北幅を 44 歩とする。さらに、一戸の上限を 44 歩×44 歩＝8 畝の正方形の敷地、一般に班給されたのは、その 10 分の 1、8 分の土地とする。1 畝＝10 分であるから、8 畝は 10 戸分の平民用の宅地となる。南北に背割りし、2 分
すると考えると、胡同の南北両側の宅地は、各 50 軒、計 100 軒あるのがモデルとなる。